フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 24 期・第 6 回）議事要旨

日時： 令和元年 9 月 8 日（日）10：00～12：00
会場： 日本学術会議 6－C（1）会議室（6 階）
出席：花木啓祐、窪川かおる、日置光久、氷見山幸夫、小金澤孝昭、小松輝久、山口しのぶ、鈴木康弘
（オブザーバー：小林亮、鈴木克徳、市瀬智紀、川上真哉）

議 題
1）分科会に関係する国際的・国内的動向について
・2017 年 12 月の国連総会において、SDG14「海の豊かさを守ろう」等の達成に向け、「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年（UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development, 2021－2030）」が採択･宣言された。ユネスコ-政府間海洋学委員会(IOC)は、国連の指名により、その実施計画策定機関として準備期間における取組を主導しており、今後 2 年間国際レベル･地域レベルでの実施計画策定に向けたコンサルテーションを進める。その一環として、7/31～8/2 に東京で、UNESCO-IOC の ”Regional Planning Workshop for the North Pacific and Western Pacific Marginal Seas”が地域レベルの世界最初の会議として開催された。Global Panel VI: ”A Transparent and accessible ocean”において学校教育における海洋教育が検討された。東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターのポスターも掲示された。文科省がアジアで開催されたこの会合を後援したことは Decade of Ocean Science for Sustainable Development において、日本が率先して責任を果たしていくことを示すという大きな意味がある。なお、この会合に先立ち Executive Planning Group の第 1 回会合がデンマークのコペンハーゲンで今年の 5 月に開かれ、日本から植松光男東大名誉教授が 18 人のグループメンバーの一人として参加した。
・海について汚染などの深刻な問題がしばしば注目されているが、日本では海離れが生じており、国民が海に親しみを持ち、海に関心をもつようになることが重要である。将来の世界人口増加の中で、日本がいかにしてタンパク質を確保するかということを考えたときに、排他的経済水域の中の水産資源を保全し、将来も持続的に利用できるようにしなければならないので、海が重要だという認識が広まるよう市民や子供たちに働きかける教育が重要。
・海岸部の護岸や防潮堤などの人工物は陸と海との自然の連続を断ち切り、人を陸に封じ込める。そのようなことも国民の海離れを促進してる。一方、フランスでは自然的海岸を守っている。イタリアでは日本と同じように海岸部の人工化が進んでいる。そのため、イタリア人観光客がフランス地中海でバカンスを過ごすということが起きている。
・2011 年 3 月 11 日の津波後の復旧工事では、漁業者の反対を押し切って大きな堤防が築かれた。沿岸部は、陸と海のエコトーン（遷移帯）で、干潟、塩生湿地、藻場などの生物多様性にとって重要な生息場が分布している。この津波では、埋め立てられていた湿地帯や干潟が戻った。日本政府は、生物多様性戦略を定め、自然再生推進法で生態系の再生を推進し

ている。しかし、東日本大震災以降、震災前に戻す工事を優先し、巨大防潮堤を建設し、湿地や干潟は再び消失した。近い将来起こる東海、東南海地震で津波が生じると予測されるが、津波の生じる前から復旧をどうするのかを議論しておかないといけない。
・7/30～31 みなと未来で地球環境戦略研究機関（IGES）と国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）主催で「SDGs 達成に向けた ESD の今後の展開」に関するセッションが開催され、UNESCO や日本の識者からのプレゼンと討議が行われた。
・9/4 に G20 の教育担当大臣会議。様々なステークホルダーと議論の場。
・OECD イニシアティブスクールへ日本からも何校か指定を受けた。生徒と教員が英語でプレゼン。学校レベルの取り組みが紹介された。企業の取り組みとして ANA ホールディングスが人材育成を紹介。公開シンポで会場から Twitter 参加もあるユニークな取り組み。自然共生社会の実現にどのように貢献するか。
・サステイナビリティ高等研究所で Project: “Water for Sustainable Development”、Project: ”SATOYAMA INITIATIVE”が実施されている。9/1、山口委員が所長就任。
・2020 年 6/2～4、ドイツ・ベルリンで ESD for 2030 の Global Launch Conference 開催。
・会長談話として緊急メッセージが発出された。温暖化についてだけで良いのか？ 今後積極的に関わることが委員長から提案され、了承された。

２）小委員会活動報告
・海洋教育小委員会（日置委員長）から報告。２ヶ月に１回、土日に東大で FE の中での海洋教育のあり方について勉強会を数回開催。大気を考えるためにも海洋が重要。幼児期からの教育が必要、Nature の巻頭言が海洋教育に言及していた、など。
・ESD 小委員会（小金澤委員長）から報告。数ヶ月に一回議論。7/23 に小委員会開催。今年中にあと一回開催予定。

３）今後の活動方針について
・ESD の GAP 後の世界的枠組み計画（ESD for 2030）が年内に決まる見通し。それに対応する国内実施計画が来年度決定されるので、本委員会から提案するなら来年 3～4 月にインプットできると良い。それに間に合うようにフォーラムの結果を纏める。
・来週、UNESCO でも議論。
・来年 2～3 月に WS を計画（ホールではなく会議室利用、予算がなければ手弁当）。
・8～9 月に今季最後の学術シンポもしくはフォーラムを企画する。

４）学術フォーラム「Future Earth と学校教育」最終打ち合わせ
・受付、会場係等を分担。
・写真撮影は原則可とすることを確認。

５）その他
・とくに無し。